

# 平成19年度 全国学力・学習状況調査結果について

## 1 本市の実施状況

○調査実施年月日 平成19年4月24日(火)

○実施学年 小学校 16校 第6学年(児童数 1124名)  
中学校 9校 第3学年(生徒数 851名)

## 2 本市の調査結果の概要

調査結果の分析は、実施要領の調査の目的にもあるとおり全国的な状況及び神奈川県との関係において行った。具体的には、A問題では「正答率80%以上の設問が、相当数の児童生徒ができています」と判断し、「正答率60%未満の問題が、本市にとって課題がある」と判断した。また、B問題では、難易度を考慮し、「正答率70%以上の設問が、相当数の児童生徒ができています」と判断した。

### (1)平均正答率の結果

- ア 小学校 国語A・国語B、算数A・算数Bのいずれも、全国及び神奈川県の平均正答率を上回っている。特に、B問題の方が多く上回っている。
- イ 中学校 国語A・国語B、数学A・数学Bのいずれも、全国及び神奈川県の平均正答率を上回っている。小学校の場合よりも大きなポイントで上回っている。特に数学では、高い平均正答率となっている。

### (2)各設問の正答率の分布状況

- ア 小学校 国語Aでは18問中12問が、正答率80%以上であり、相当数の児童がよくできている。正答率60%未満の設問数は、全国状況よりも少ない。  
国語Bでは10問中4問が、正答率70%以上であり、難易度を考慮しても相当数の児童がよくできている。正答率50%未満の設問数は、全国状況よりも少ない。算数Aでは19問中14問が、正答率80%以上であり、全国及び神奈川県の状況を上回っている。相当数の児童がよくできている。  
算数Bでは14問中6問が、正答率70%以上であり、難易度を考慮しても相当数の児童がよくできている。
- イ 中学校 国語Aでは37問中26問が、正答率80%以上であり、相当数の生徒がよくできている。正答率50%未満の設問は1問のみである。国語Bでは10問中8問が、正答率70%以上であり、相当数の生徒がよくできている。  
数学Aでは36問中16問が、正答率80%以上であり、全国及び神奈川県の状況を上回っている。正答率50%未満の設問は1問であり、全国及び神奈川県の状況よりも少ない。相当数の生徒がよくできている。  
数学Bでは17問中6問が、正答率70%以上であり、難易度を考慮し正答率を60%以上でみた場合、17問中10問であり、相当数の生徒がよくできている。

### (3)正答率が全国及び神奈川県の結果を下回っている設問

- ア 小学校 国語Aでは18問中6問が下回っているが、そのうちの4問は正答率90%以上である。残り2問が正答率50%台であり、課題がみられた。

国語Bでは10問中3問が下回っているが、そのうちの1問は正答率70%以上である。残り2問が正答率50%台であり、難易度が高いが、課題である。

算数Aでは18問中8問が下回っているが、そのうちの7問が正答率80%以上である。残り1問が正答率60%台であり、課題がみられた。

算数Bでは14問中2問が下回っているが、そのうちの1問は正答率70%以上である。残り1問が正答率50%台であり、課題がみられた。

イ 中学校 国語Aでは37問中5問が下回っているが、そのうちの3問は正答率80%以上である。残り2問が正答率50%台であり、課題がみられた。

国語Bでは、全国及び神奈川県の上回るものはない。

数学A及び数学Bでは、全国及び神奈川県の上回るものはない。

#### (4) 正答率が60%未満の設問

ア 小学校 国語Aでは、「一文を二文に分けて書く」「分かりやすい話し方を選択」など3問。国語Bでは、「古紙の再生利用が重要な理由を書く」「二人の感想文から共通する書き方の良いところを書く」など4問。

算数Aでは、「 $210 \times 0.6$ の式で答えが求められる問題を選ぶ」の1問。

算数Bでは、「 $25 \times 32$ を筆算を用いず工夫して計算」「安売りケーキ、どちらの曜日が安くなるかの式と答え」「地図を観察し図形を見つけ、面積を比較し説明」するなどの3問。

イ 中学校 国語Aでは、「手紙の後付けの適切な書き方」など3問。

国語Bでは、「広告カードを比較し、共通する情報を読み取る」など2問。

数学Aでは、「円柱と円錐の体積を比較、正しい図を選ぶ」「反比例の表を完成する」「確率を表した事象を選ぶ」などの3問。

数学Bでは、「筋道を立て数学的な表現で説明する」「連続する5つの自然数の和が5の倍数となることを説明」「証明の中の誤りを正しく書き直す」などの7問。

なお、数学Bにおいて、正答率が60%を下回るものが17問中7問となっているが、いずれも本市の正答率は、全国及び神奈川県を上回っている。

#### (5) 正答率の分布の形状

ア 小学校 国語A及び国語Bでは、グラフの中央値及び標準偏差ともに全国及び神奈川県とほぼ同様である。

算数A及び算数Bでは、グラフの中央値が全国より大きく、標準偏差が全国より小さくなっており、右よりの単峰分布の形状となっている。

\* 単峰分布とは、数理統計・データ解析で使用される用語です。グラフの形状が山が一つとなっており、右(左)に裾をひいた分布をいいます。

イ 中学校 国語Aではグラフの中央値が全国及び神奈川県より大きく、標準偏差は国語A及び国語Bのいずれも全国及び神奈川県より小さく、良い分布である。

数学A及び数学Bでは、いずれも中央値が全国及び神奈川県より大きく、標準偏差が小さくなっており、右よりの単峰分布の形状となっている。

#### (6) 児童生徒質問紙

児童質問紙・生徒質問紙ともに、その結果内容は、全国及び神奈川県とほぼ同様の結果である。

## 小学校国語の結果概要

### 1 調査問題の趣旨・内容

#### 国語A

基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身についているかどうかをみる問題であり、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において常に活用できるようなっていることが望ましい知識・技能などを内容としている。

- ・聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために大切なことを理解している。
- ・話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る。
- ・目的や様式に応じて必要な事柄を選んで、文章を書き換える。
- ・説明文の段落の内容をとらえる。
- ・物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読む。
- ・物語の主人公について一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換える。
- ・当該学年までに配当されている漢字を正しく読み、当該学年の前の学年までの漢字を正しく書く。
- ・調べたい事柄について、辞書を効率よく利用する。
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う。
- ・指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している。

#### 国語B

基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題であり、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し活用に関する内容としている。

- ・司会の役割や働きを押さえて、話し合いを計画的に進める。
- ・身近な問題について考えるために、複数の資料を調べて新聞記事に書く。
- ・二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる。
- ・広告の情報を的確にとらえたり、適切な敬意表現にしたりする。

### 2 課題等 相当数ができている 課題がある

#### 話すこと・聞くこと

話の要点を聞き取り効率よくメモを取ることににおいて、指導の成果がみられる。「話を聞く」ことにおいて、指導の成果がみられる。

Bでは、国や県をかなり上回っているが、Aではやや下回るという結果である。特に聞き手に分かりやすい話し方の理解が十分とはいえない状況である。

#### 書くこと

A Bともに国や県の正答率を上回る結果である。目的に応じて必要な事柄を選んで文章を書き換えることなどは答えられている。

自分の考えを決められた字数で、記事として具体的に書く力については、十分とはいえない状況である。

#### 読むこと

全体としては国や県を上回る正答率を示している。文章を正しく読み取り、話の全体の内容をとらえることには成果がみられる。

読みとったことを自分の考えとしてまとめていくことには課題が残った。

#### 言語事項

調べたい事柄について、辞書を効率よく利用することについては国や県を上回り、各学校での丁寧な指導の成果がみられる。

当該学年までに配当されている漢字を正しく読むことについては良いが、漢字を正しく書くことについては課題である。

言葉の意味を考え、それを適切に使う力は、国や県と大きな差異はないが、十分とはいえない状況である。

### 3 指導改善のポイント

#### 話すこと・聞くこと

音声面の具体的な指導について、聞き手の反応や表情などを確かめながら話し方を調整する知識技能の定着を図る。

#### 書くこと

自分の考えを決められた字数や表現様式などに即して書き換えるなどの言語活動を多く経験できるようにする。

#### 読むこと

文章を比べて読み、観点に沿って大事なことを取り出し、気付いたことや考えたことを簡潔にまとめる言語活動の充実を図る。

#### 言語事項

文章中の文を取り上げ、一文で書かれた内容を理解し、一文を二文の構成にして書き換えたりする言語活動などを通して、文の構成についての理解の定着を図る。

### 4 分布の状況(正答率のグラフより)

#### 国語A

正答数の分布は、国や県と同様に右よりの単峰分布の形状となっている。平均正答数は国や県を上回る結果となり、中央値や最頻値は国や県と同じであるが、高正答数での正答率が高くなり、全体として本市の平均正答率を高めている。

#### 国語B

正答数の分布は、なだらかな右よりの単峰分布の形状となっている。平均正答数は国や県を上回る結果となっている。中央値は国や県と同じであるが、最頻値は国や県に比べて高い。記述式問題に無解答率の高いものがあり、課題となっている。

## 小学校算数の結果概要

### 1 調査問題の趣旨・内容

#### 算数A

##### 【問題作成の基本理念】

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の習得状況が計れる内容(主として「知識」に関する問題)

##### 【問題作成の構成】

領 域	「数と計算」 11問、「量と測定」 3問、「図形」 2問、「数量関係」 4問 対象設問数は数学Aで全19問(2領域にわたる問題が1問ある)
評価の観点	「算数への関心・意欲・態度」 0問、「数学的な考え方」 0問、「数量や図形についての表現・処理」 9問、「数量や図形についての知識・理解」 10問
調査内容	学習指導要領の学習内容(小学校5学年までに身に付けておくべきもの) <ul style="list-style-type: none"><li>・整数、小数、分数等の四則計算をすること</li><li>・身の回りにある量の単位と測定が分かること</li><li>・図形の性質がわかること</li><li>・数量の関係を表すこと</li><li>・変化の様子を調べること など</li></ul>
問題形式	「選択式」 5問、「短答式」 14問、「記述式」 0問

#### 算数B

##### 【問題作成の基本理念】

- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)

##### 【問題作成の構成】

領 域	「数と計算」 2問、「量と測定」 3問、「図形」 3問、「数量関係」 9問 対象設問数は数学Bで全14問(2領域にわたる問題が3問ある)
評価の観点	「算数への関心・意欲・態度」 0問、「数学的な考え方」 8問、「数量や図形についての表現・処理」 4問、「数量や図形についての知識・理解」 2問
調査内容	学習指導要領の学習内容(小学校5学年までに身に付けておくべきもの) <ul style="list-style-type: none"><li>・物事を数・量・図形などに着目して観察して的確にとらえること</li><li>・与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること</li><li>・筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること</li><li>・事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること など</li></ul>
問題形式	「選択式」 5問、「短答式」 4問、「記述式」 5問(方法及び理由を説明)

## 2 課題等      よい状況であるもの      課題がある

### 数と計算

- (A) 整数、小数、分数の計算は、相当数の児童ができています。
- (A) 分数及び小数の大小関係を数直線上に表す問題で全国の正答率よりも良い状況である。
- (A) 計算の順序についての決まりを理解し、正しく計算できることに課題がある。
- (A) 問題文から小数の乗法の式を考える。
- (B) 計算の工夫を理解し、その計算方法を説明することに課題がある。

### 量と測定

- (B) 地図から複数の図形を見だし、必要な情報を分類整理し適切に選択し、面積を比較し、説明することに課題がある。

### 図形

- (A) 三角形や平行四辺形の性質を理解し、角の大きさを求めたり作図したりすることは、相当数の児童ができています。

### 数量関係

- (A) 伴って変わる二つの数量について、関係を表にまとめたり変化の規則性を読み取る問題で全国の正答率よりも良い状況である。
- (B) 棒グラフから数量の大小や変化の様子を読み取ることは、相当数の児童ができています。
- (B) 帯グラフから割合(百分率)の変化の様子を読み取ることができることに課題がある。
- (B) 式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠を明確にして説明することに課題がある。また、この問題(記述式)の無回答率が高い。

## 3 指導改善のポイント

### 数と計算

いくつかの場面で乗法か除法かを判断して立式する活動を当該学年の指導にとどまらず継続して指導に取り入れる。さらに小数や分数を簡単な数値に置き換えて数量関係を考える機会を設定する。計算の仕方を発見したり、計算の工夫をしたりするために、数を多面的に見るような場面を設定する。数を量として視覚的にとらえさせるなど、教材・教具の工夫や図形を用いて理解させるなどの機会を設定する。

### 量と測定

過剰な情報を含んだ場面や事柄を提示して、問題解決のために必要な情報を選択して考える活動の機会を設定する。

### 数量関係

計算の順序についての決まりは、具体的な場面を用いて指導する。さらに計算の順序を間違えて計算している解答例などを提示して、児童に考えさせる活動を取り入れる機会を設定する。

目的に応じて、グラフが表す情報を読み取ることができるように、様々なグラフの特徴を当該学年の指導にとどまらず継続して指導に取り入れる。さらに他教科の学習内容において、円グラフや帯グラフなどを読み取る場面と関連させながら、算数科との関連を児童が実感できるような活動を重視する。

言葉や公式で表しているものにいろいろな数を当てはめる活動を取り入れる。その際、同じ部分と異なる部分などに着目して計算結果を判断する活動を取り入れる。さらに「だから となる」など、根拠を明らかにしながら説明する活動を取り入れる。

#### 4 分布の状況(正答率のグラフより)

##### 算数A

全国正答数の分布と比較して、正答率の高い児童の数がやや多いが、全国平均正答率とほぼ同様な結果である。また、「評価規準(努力を要する等)」の比率が公表されていない。このような児童に対する学力を底上げするためにも、基礎的・基本的な知識・技能を更に身につけさせる必要がある。

##### 算数B

全国平均正答率とほぼ同様な結果である。これは、全国正答数の分布と比較して、正答率の高い生徒数がやや多いという特徴が分布から読み取れる。また、前述の調査問題の構成で、記述式の問題形式が多く、難易度も高い。評価の観点では、数学的な考え方をみる出題問題が多く見られる。そのため、単に平均正答率で、数学Aと比較することに無理がある。このことを考えると、学習指導要領に照らして、領域・観点から課題を整理する必要がある。

## 中学校国語の結果概要

### 1 調査問題の趣旨・内容

#### 国語 A

- 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかを見る問題
- ・手紙の後付けの適切な書き方を選択する。
  - ・文学的な文章に描かれた場面と表現についての適切な説明を選択する。
  - ・電話の相手の話に不足している情報について質問する。
  - ・漢字を正しく書き、正しく読む。適切な敬語を選択する。

#### 国語 B

- 基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題
- ・ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く。
  - ・「蜘蛛の糸」(芥川龍之介)の「三」の場面の有無に関して、自分の考えを80字以上120字以内で書く。
  - ・中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を書く。

### 2 課題等 相当数ができている 課題がある

#### 話すこと・聞くこと

- (A) 伝える必要のある内容を簡単なメモにまとめること、聞き手を意識して使用する語句を工夫すること、話し手の意図を理解し内容にふさわしい題名をつけることは、相当数の生徒ができている。
- (B) 話すことの内容に応じて、適切な資料を提示することは、相当数の生徒ができている。

#### 書くこと

- (A) 手紙の結語に対応する頭語を選択すること、手紙の主文の書き出しの語を選択することはほとんどの生徒ができている。
- (A) グラフから情報を読み取り、文章の結論につながるように書くことは、ほとんどの生徒ができている。
- (A) 手紙の後付けの適切な書き方を選択することには、課題がある。
- (B) 情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えを適切に相手に伝わるように書くこと、作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書くことは、相当数の生徒ができている。
- (B) 資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確に書くことに課題がある。

#### 読むこと

- (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと、語句の意味に注意して内容を読み取ることは、相当数の生徒ができている。
- (A) 枕草子の冒頭を書くことは、相当数の生徒ができている。代表的な古典に親しんでいる。



- (A) 文脈における自然描写を的確に読み取ること、比喻等の表現方法に注意して内容をとらえることは、やや課題である。
- (B) 必要な情報を収集し表現に生かすこと、作品の内容や表現上の特徴をとらえることは、相当数の生徒ができています。

#### 言語事項

- (A) 語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと、文の成分の照応に注意して書くことは、相当数の生徒ができています。
- (A) 適切な敬語を選択すること(尊敬語・謙譲語)は、相当数の生徒ができています。
- (B) 作品の展開や心情の変化に着目して朗読することは、ほとんどの生徒ができています。

### 3 指導改善のポイント

#### 話すこと・聞くこと

目的に沿って話したり、適切に聞き取ったりする言語活動の充実

・話すこと・聞くことの問題は、国語A・国語Bともに相当数の生徒ができていますが、インタビューの一部を読み、改善点として適切なものを選択する問題や聞き手にわかりやすい表現になおす問題等については、聞き手や話しての意図を理解して語句を使用できるような指導の工夫がさらに必要である。

・話すことの内容に応じて、資料を提示する能力を高めるためにも、意図や目的を考えてメモを取るなどの言語活動をとおり、知識・技能の定着を図る指導の充実が求められる。

#### 書くこと

収集した情報を的確に整理し、自分の考えを書く言語活動の充実

・書くことの問題の結果は、全国及び神奈川県の結果とほぼ同様であり、情報を基に自分の考えをまとめたり、作品の内容や表現上の特徴を踏まえて自分の考えをまとめたりする力をさらにつけることが必要である。

・情報を整理するためには、複数の資料を比較し、共通点や相違点をまとめながら自分の考えをつくりあげる言語活動が重要である。

・手紙文の指導では、相手や目的に応じた書き方、書写や敬語の指導と併せて行うことが必要である。

#### 読むこと

文章を的確に読み取り、活用する言語活動の工夫

・様々な文章の構成や表現方法に注意しながら、的確に読み取る言語活動の充実が必要である。

・文章の描写や表現に注意し、情景や人物を思い浮かべながら読み味わう読書活動を工夫することが必要である。

#### 言語事項

文脈に即した漢字の正しい読み書きの指導の工夫

- ・漢字の指導にあたっては、文脈や具体的な使用場面に即した使用ができるように工夫することが必要である。

#### 4 分布の状況(正答率のグラフより)

##### 国語 A

平均正答数、平均正答率ともに、全国及び神奈川県の結果を上回っている。

中央値が高く、標準偏差が小さい結果であり、全国及び神奈川県の分布よりも良い状況である。

##### 国語 B

国語 A より問題数が約4分の1と少なく、難易度が高いと思われるが、平均正答数、平均正答率ともに、全国及び神奈川県の結果を上回っている。

中央値は同じであるが、標準偏差は小さく、良い分布である。

## 中学校数学の結果概要

### 1 調査問題の趣旨・内容

#### 数学A

##### 【問題作成の基本理念】

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能の習得状況が計れる内容(主として「知識」に関する問題)

##### 【問題作成の構成】

領 域 「数と式」 12問、「図形」 12問、「数量関係」 12問

対象設問数は数学Aで全36問

評価の観点 「数学への関心・意欲・態度」 0問、「数学的な見方や考え方」 0問、「数学的な表現・処理」 14問、「数量、図形などについての知識・理解」 22問

調査内容 学習指導要領の学習内容(小学校6学年、中学校1学年、中学校2学年)

- ・整数、小数、分数等の四則計算をすること
- ・身の回りにある量の単位と測定が分かること
- ・図形の性質がわかること
- ・数量の関係を表すこと
- ・変化の様子を調べること
- ・確率の意味を理解し確率を求めること など

問題形式 「選択式」 18問、「短答式」 18問、「記述式」 0問

#### 数学B

##### 【問題作成の基本理念】

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容(主として「活用」に関する問題)

##### 【問題作成の構成】

領 域 「数と式」 5問、「図形」 2問、「数量関係」 10問、

対象設問数は数学Bで全17問

評価の観点 「数学への関心・意欲・態度」 0問、「数学的な見方や考え方」 13問、「数学的な表現・処理」 3問、「数量、図形などについての知識・理解」 1問、

調査内容 学習指導要領の学習内容(小学校6学年、中学校1学年、中学校2学年)

- ・物事を数・量・図形などに着目して観察して的確にとらえること
- ・与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること
- ・筋道を立てて考えたり振り返って考えたりすること
- ・事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること など

問題形式 「選択式」 3問、「短答式」 7問、「記述式」 7問(事実を説明 1問、方法や手順を説明 1問、理由を説明 5問)

2 課題等      よい状況であるもの      課題がある

**数と式**

- (A) 指数を含む計算、式の値を求めること、一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができてい  
る。
- (A) 文字式の計算や、文字式の意味のみとりができるかどうかをみる問題、また方程式の移項と等  
式の関係を理解しているかをみたり、連立二元一次方程式を解いたり、具体的な場面で、連立  
二元一次方程式を立式することができるかどうかをみる問題は全国の正答率よりも良い状況で  
ある。
- (A) (B) すべての問題で全国の正答率よりも良い状況である。
- (A) 文字式の意味を、具体的な事象の中でよみとることに課題がある。
- (A) 等式を目的に合うように変形することに課題がある。またこの問題の無回答率は数と式の領域  
内では他の問題と比較して高い。(短答式)
- (A) 数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式を立式する問題の無回答率は数と式の領域内では  
他の問題と比較して高い。(短答式)
- (B) 事柄が成り立つ理由を説明する問題(記述式)の無回答率が高い。
- (B) 情報を分類整理し適切に選択し、判断することに課題がある。

**図形**

- (A) 平行四辺形になるための条件を表した記号をもとに、正しく述べられた文を選ぶ問題は全国の  
正答率よりも良い状況である。
- (A) 基本的な平面図形の性質の理解については、相当数の生徒ができてい  
る。
- (A) (B) すべての問題で全国の正答率よりも良い状況である。
- (A) 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係についての理解に課題がある。

**数量関係**

- (A) 比例の意味を理解している
- (A) (B) すべての問題で全国の正答率よりも良い状況である。
- (B) 表やグラフより与えられた数値や、情報を読み取ることにについては、相当数の生徒ができてい  
る。
- (A) 反比例の関係を表す対応表を完成させることに課題がある。
  
- (A) 確率の意味についての理解は、全国の正答率よりも良い状況であるが、課題がある。
- (A) 一次関数のグラフ(時間と道のりの関係を表したグラフ)から速さを求めることに課題がある。ま  
たこの問題の無回答率は数量関係の領域内において、他の問題と比較して高い。(短答式)
- (B) 事柄についての事実を説明する問題(記述式)及び事柄を調べる方法や手順を説明する問題  
(記述式)の無回答率が高い。

### 3 指導改善のポイント

#### 数と式

文字を用いて関係や法則を式に表現したり、文字式が表す意味を具体的な事象に即して理解したりする活動を重視する。さらに事柄が成り立つ理由を数学的に表現する活動の場面で、根拠と結論の両方を述べる機会を意図的に設定する。

等式の性質の意味を十分理解させたうえで、等式の性質を使った解き方と移行による解き方の対比をするなどの活動を重視する。

問題解決の場面で方程式を利用する場合、ある特定の量に着目したあと、「問題文中にある数量関係を等式の表し方で表現することができないか」などの問いかけをするなど、方程式の立式に至る過程で、十分に考える時間を確保する。さらに得られた解を問題場面に照らし合わせて考えたり、解き方を見直したりする機会を設定する。

情報の整理に、樹形図や表を活用するなどの方法を選択したり、条件を考える際、表の整理の仕方を考えて工夫する機会を設定する。

#### 図形

実験や実測を通して、体積の量感を確実に身に付けられる図形の性質を理解する活動を重視する。

仮定と結論を言葉や記号で確認したり、図の中で色分けをしたりするなどして、全体の構想を組み立てる活動の充実を図る。さらに、証明の誤りを振り返り、その評価に基づいて証明を改善する活動の充実を図る。

#### 数量関係

反比例について、グラフ・式・対応表などを用いて比例と対比したり、変化と対応の両側面から考えたりするなど、その意味と性質を理解する活動を重視する。

確率を基にして事象を振り返るなど、確率の意味を理解する実験や実測などの活動を重視する。

数量関係を理想化したり、単純化したりして、問題解決の方法を数学的に表現する活動の充実を図る。

### 4 分布の状況(正答率のグラフより)

#### 数学A

全国正答数の分布と比較して、正答率の比較的低い生徒が少なく、正答率の高い生徒の数が多いため、全国平均正答率を上回っている。また、「評価規準(努力を要する等)」の比率が公表されていない。このような生徒に対する学力を底上げするためにも、基礎的・基本的な知識・技能を更に身につけさせる必要がある。

#### 数学B

全国平均正答率を上回っている。これは、全国正答数の分布と比較して、正答率の比較的低い生徒数が少なく、正答率の高い生徒数が多いという特徴が分布から読み取れる。

また、前述の調査問題の構成で、記述式の問題形式が多く、難易度も高い。評価の観点では、数学的な考え方をみる出題問題が多く見られる。そのため、単に平均正答率で、数学Aと比較することに無理がある。このことを考えると、学習指導要領に照らして、領域・観点から課題を整理する必要がある。

## 本市における取組課題

「本市の調査結果の概要」「教科に関する調査結果」及び国立教育政策研究所作成の「今後の学習指導に当たって」の内容から総合的に判断し、本市における今後の具体的な取組として、次の内容を指摘することができる。各小中学校における今後の取組課題のひとつとして位置付け、指導方法の工夫・改善につなげていきたい。

### (1) 国語

ア 言語活動の充実を図るために、その基礎となる描写・要約・説明・討論など知識・技能の定着をさらにすすめる。

#### 【 具体的な指導課題 】

- (ア) 配当されている漢字を正しく書き、文や文章の中で適切に使用できるようにする。
- (イ) 目的、内容に応じ、聞き手の反応を確かめながら話す力(表現力)の育成を図る
- (ウ) 具体的な場面を設定し、自分の考えをまとめる力の育成を図る。
- (エ) 話の内容を聞き取る力の育成を図る。

イ 言語活動の充実を図るためには、その活用する力を身につけることが重要であり、そのために、日常生活や社会生活に関連させた授業展開の工夫改善をさらにすすめる。

#### 【 具体的な指導課題 】

- (ア) 読書に親しむ言語生活の習慣化をさらに進める。
- (イ) より多くの文章や資料に接し、比べ読みをとおして内容をまとめる力の育成を図る。
- (ウ) 様々なメディアや情報を活用し、情報を整理する力の育成を図る。

### (2) 算数・数学

ア 日常的な場面や事象に即し、実験や実測などの体験活動を充実させた授業展開を工夫することで、算数・数学の知識・技能の定着をさらにすすめる。

#### 【 具体的な指導課題 】

- (ア) より具体的な事象を取り扱う授業実践の工夫を図る。
- (イ) 生活の中に活用する場面を設定することにより、知識・技能の定着を図る。
- (ウ) 実験や実測をとおして、実感を伴った理解が得られる工夫を図る。

イ 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識の定着を図るため、繰り返し学習を今後もさらに充実させる。

#### 【 具体的な指導課題 】

- (ア) 数、式、図、グラフなど活用して説明する力の育成を図る。
- (イ) 図示などを活用し、数量関係をとらえやすくする工夫を図る。
- (ウ) 補充的な学習を工夫し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。

## 児童生徒質問紙の結果

### 1 学習に対する関心・意欲・態度

「国語の勉強は好きですか」「算数・数学は好きですか」の各質問について、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計値を全国及び神奈川県の結果と比較した場合、国語及び数学については小・中学校ともに高くなっているが、算数については低くなっている。

「国語、算数・数学で学習したことは、将来役に立つと思いますか」の質問について、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計値を全国及び神奈川県の結果と比較した場合、いずれの教科でも小学校では低いが、中学校では高くなっている。

学年がすすむにつれて、教科及び学習内容に対する関心・意欲・態度が高くなっているものと考えられる。

### 2 学習時間等

「学校以外での1日当たりの学習時間」の結果は、小学校の場合、「3時間以上」が全国の結果の約2倍であるが、一方「30分より少ない」「全くしない」は全国より若干高い数値となっている。中学校の場合、「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」が全国及び神奈川県の結果よりも高く、「全くしない」は低くなっている。

「土曜日・日曜日など学校が休みの日の1日当たりの学習時間」の結果は、小学校・中学校ともに「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」が、全国及び神奈川県の結果よりも高くなっている。一方「全くしない」は、小学校では高いが、中学校では低くなっている。

学年がすすむにつれて、家庭での学習時間が多くなっているが、小学校では平日・休日ともに「全くしない」児童が、中学校よりも多くいるものと考えられる。

### 3 読書時間等

「読書が好きですか」の結果は、小学校の場合、ほぼ全国及び神奈川県と同様の結果であるが、中学校の場合、「当てはまる」が全国及び神奈川県より高い結果となっている。

「家や図書館での読書時間」の結果は、「30分以上、1時間より少ない」の回答が多く、全国及び神奈川県と同様の結果である。一方「全くしない」の回答割合が、全国及び神奈川県及び本市でも高くなっているが、中学校の「全くしない」の結果は、本市の場合、全国及び神奈川県よりも大幅に低くなっている。

朝読書等の取り組みの成果が見られるものと考えられる。

### 4 学習塾

「学習塾に通っていない」の割合は、小学校・中学校ともに全国及び神奈川県より低い結果である。小学校の場合、「学校よりも進んだ内容や、難しい内容も勉強している」が全国及び神奈川県よりも非常に高いが、中学校の場合、「進んだ内容と学校でよくわからなかった内容の両方を勉強している」が高くなっている。

学年がすすむにつれて、授業内容の理解が不十分なものが多くなっているものと考えられる。

### 5 基本的な生活習慣

「朝食を毎日食べていますか」は、小学校・中学校ともに全国及び神奈川県と同様の結果である。「全く食べていない」の割合が、小学校よりも中学校で高くなっている。

毎日の起床や就寝時間については、「同じ時刻」の結果が、全国及び神奈川県よりも若干低くなっている。「テレビを見る時間やゲームをする時間」について、「家の人とルールを決めている」が全国及び神奈川県よりも高いが、「全く決めていない」が中学校で半数近くの数値となっている。

毎日の生活のリズムをきちんとさせる指導が求められる。

## 6 自尊感情・規範意識等

「自分にはよいところがあると思いますか」は、小学校では「どちらかといえば、当てはまる」が半数近くであり、「当てはまらない」が全国の結果より若干高くなっている。中学校でも「どちらかといえば、当てはまる」が半数近くであるが、「当てはまる」が高く、「当てはまらない」が低くなっている。自尊感情が少しずつ高まっているものと考えられる。

一方で「将来の夢や目標」について、全国及び神奈川県とほぼ同様の結果であり、特に「夢や目標をもっている」が小学校から中学校で、大幅に低くなっている。

「学校のきまりを守っていますか」は、「当てはまる(守っている)」が小学校より中学校で高い結果となっているが、一方で「当てはまらない(守っていない)」が中学校で高くなっている。

## 7 人とのかかわり

「家の人と学校での出来事について話をしますか」は、全国及び神奈川県とほぼ同様の結果であるが、「あまりしていない」「全くしていない」の合計が小学校から中学校で大きくなっている。学年がすすむにつれて、話をしなくなる傾向が確認できる。

「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」は、大半の児童・生徒が「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答しているが、ごく小さい数値であるが「そう思わない」が中学校で小学校よりも大きくなっている。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」は、「当てはまる」が大半であるが、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の結果が、全国及び神奈川県よりも高くなっている。いじめ防止に向けた、さらなる取り組みが必要と考えられる。

## 8 社会への関心度

「世の中のいろいろな出来事に関心がありますか」「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」について、いずれも全国及び神奈川県とほぼ同様の結果であるが、「当てはまる」の割合が、若干高くなっている。社会への関心度は、ある程度もっているものと考えられる。

## 9 郷土について

「今住んでいる地域が好きですか」は、「当てはまる(好き)」の結果が、小学校・中学校ともに全国及び神奈川県よりも高い。また、「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」は、「当てはまる(関心がある)」「どちらかといえば、当てはまる」の結果が、神奈川県の結果よりも大幅に高くなっている。一方、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、全国の結果よりも低く、特に中学校では「当てはまらない(参加しない)」の割合が高くなっている。

郷土への関心、特に歴史や自然に対する関心度は、非常に高いものがある一方で地域行事への参加ができない状況にあるものと考えられる。

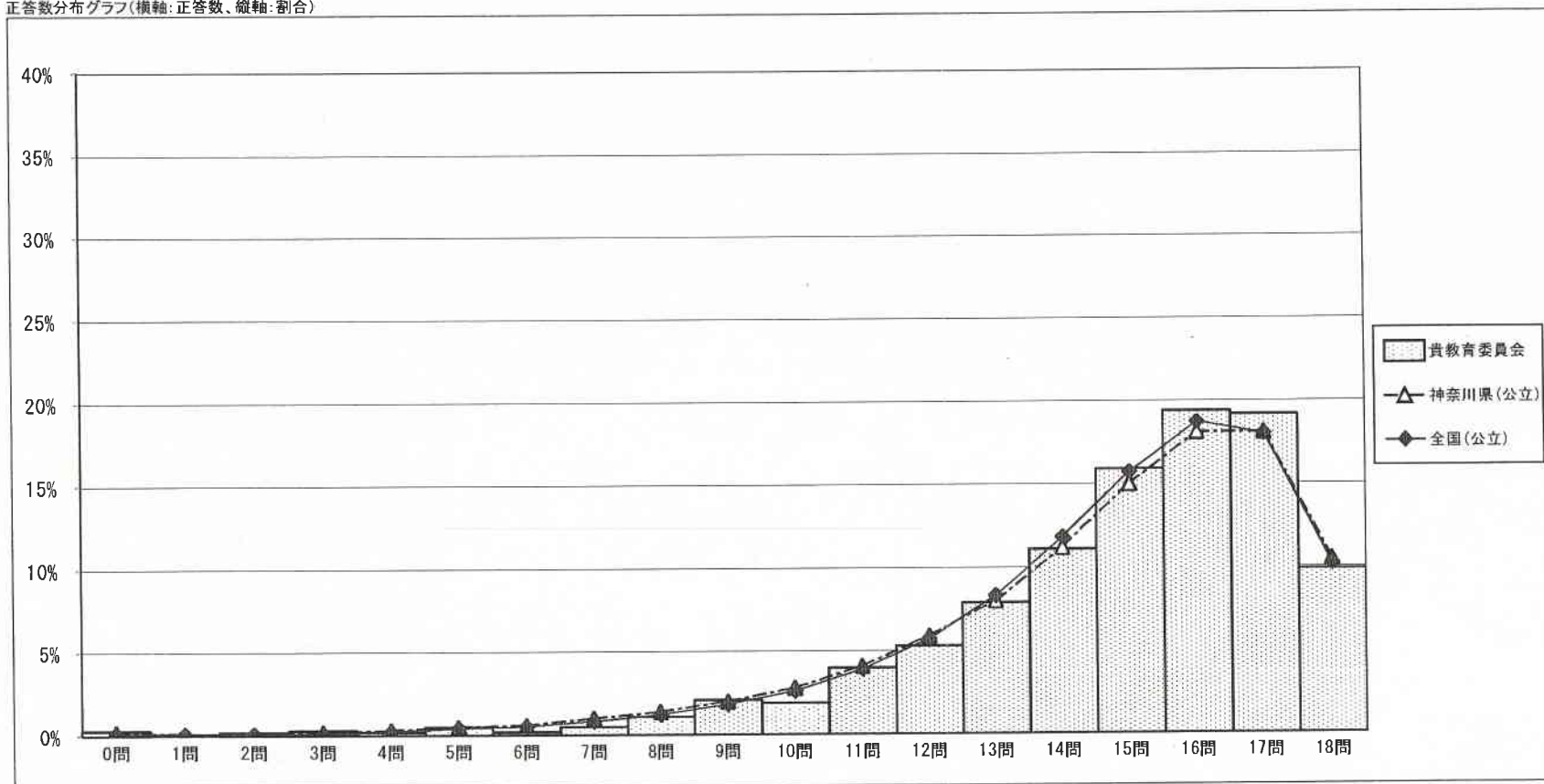


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,124	14.8 / 18	82.2	15.0	2.8
神奈川県(公立)	73,962	14.6 / 18	81.1	15.0	2.9
全国(公立)	1,125,575	14.7 / 18	81.7	15.0	2.8

正答数集計値 (児童数)	
0問	3
1問	0
2問	2
3問	3
4問	2
5問	6
6問	2
7問	6
8問	12
9問	24
10問	21
11問	45
12問	60
13問	89
14問	125
15問	179
16問	218
17問	216
18問	111

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

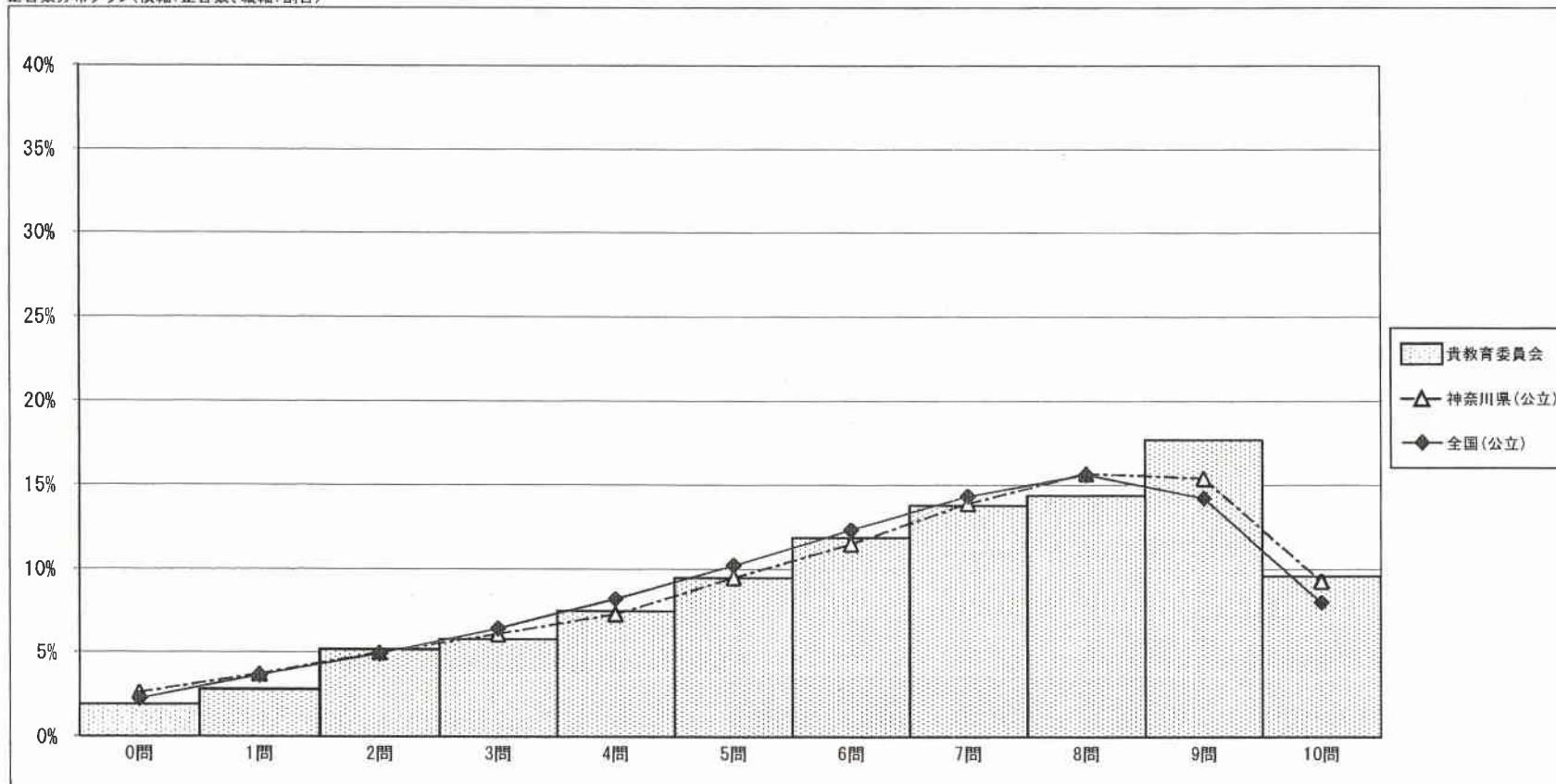


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,125	6.5 / 10	65.0	7.0	2.6
神奈川県(公立)	73,961	6.3 / 10	63.0	7.0	2.7
全国(公立)	1,125,422	6.2 / 10	62.0	7.0	2.6

正答数集計値 (児童数)	
0問	21
1問	31
2問	59
3問	65
4問	84
5問	107
6問	134
7問	155
8問	162
9問	199
10問	108

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

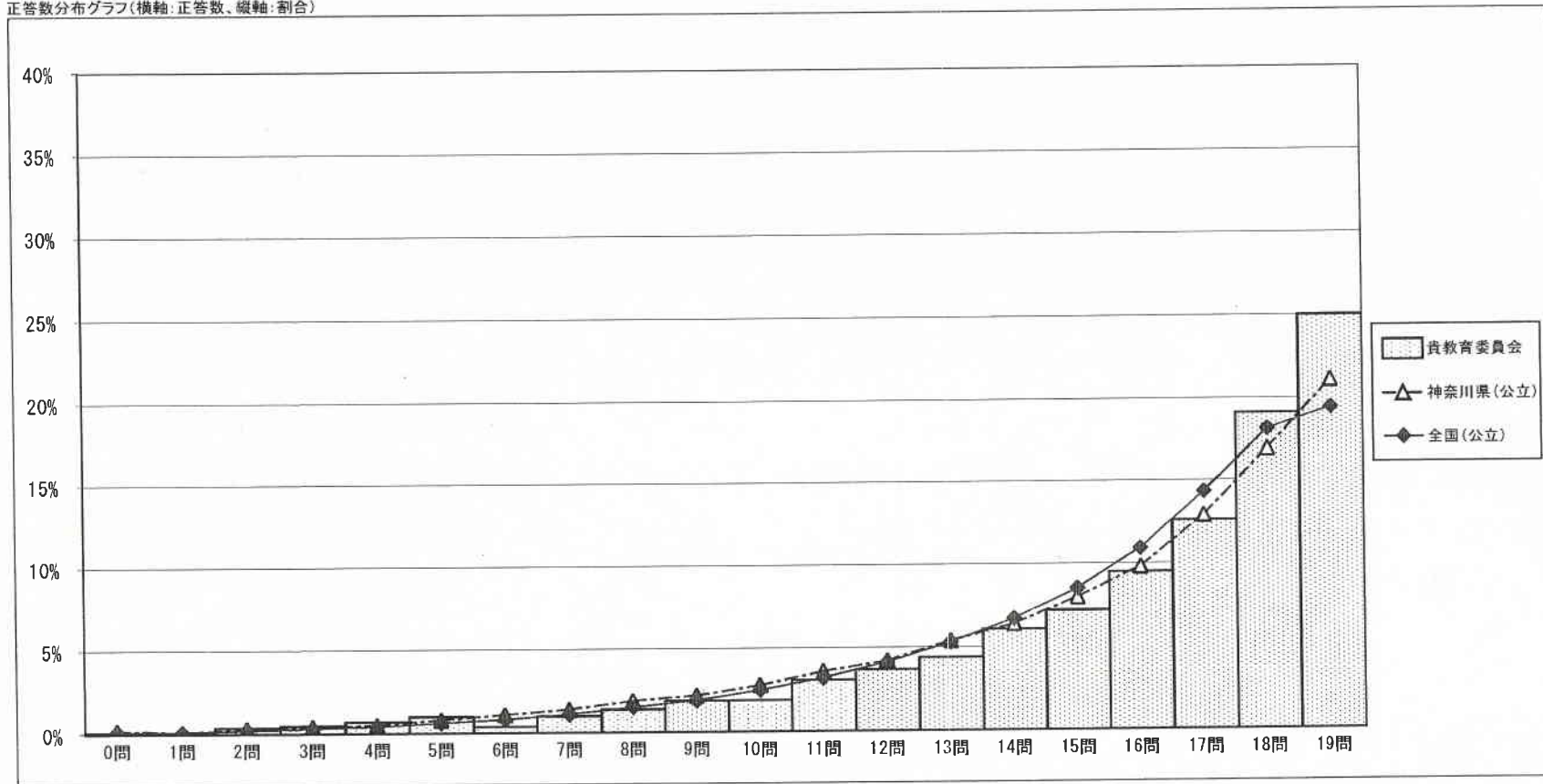


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,124	15.8 / 19	83.2	17.0	3.6
神奈川県(公立)	73,962	15.4 / 19	81.1	17.0	3.7
全国(公立)	1,125,585	15.6 / 19	82.1	17.0	3.4

正答数集計値 (児童数)	
0問	1
1問	1
2問	4
3問	6
4問	8
5問	11
6問	4
7問	11
8問	16
9問	21
10問	21
11問	35
12問	41
13問	49
14問	69
15問	81
16問	107
17問	142
18問	215
19問	281

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

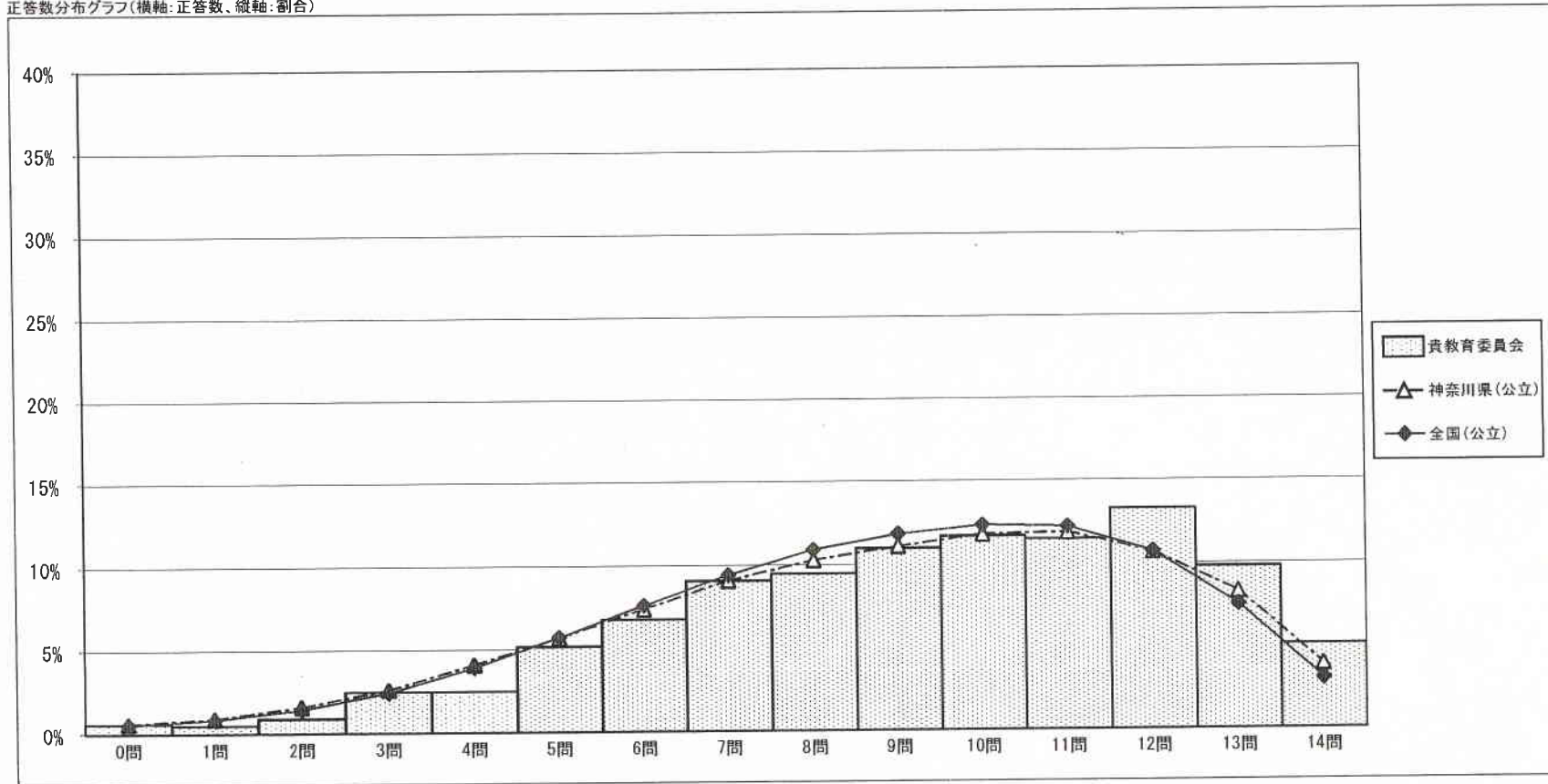


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,126	9.3 / 14	66.4	10.0	3.1
神奈川県(公立)	73,967	8.9 / 14	63.6	9.0	3.1
全国(公立)	1,125,522	8.9 / 14	63.6	9.0	3.0

正答数集計値 (児童数)	
0問	7
1問	6
2問	10
3問	28
4問	28
5問	59
6問	77
7問	102
8問	107
9問	124
10問	132
11問	129
12問	150
13問	110
14問	57

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

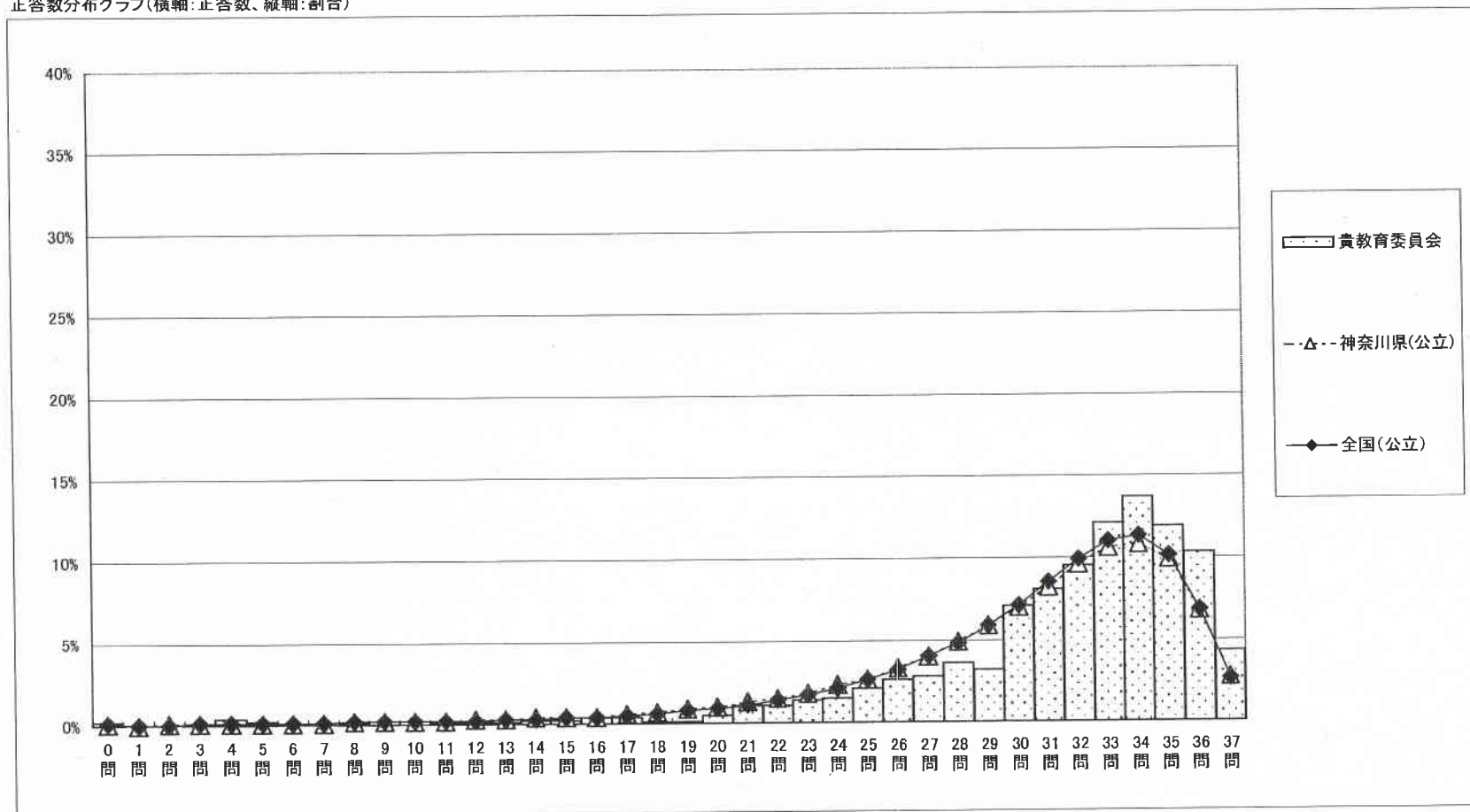


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	851	31.3 / 37	84.6	33.0	5.3
神奈川県(公立)	60,079	30.0 / 37	81.1	32.0	5.8
全国(公立)	1,022,518	30.2 / 37	81.6	32.0	5.5

正答数集計値 (生徒数)	
0問	2
1問	0
2問	0
3問	1
4問	3
5問	2
6問	0
7問	0
8問	1
9問	2
10問	0
11問	1
12問	1
13問	1
14問	2
15問	2
16問	3
17問	3
18問	1
19問	1
20問	4
21問	9
22問	9
23問	12
24問	13
25問	18
26問	22
27問	24
28問	31
29問	27
30問	60
31問	69
32問	81
33問	103
34問	117
35問	101
36問	88
37問	37

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

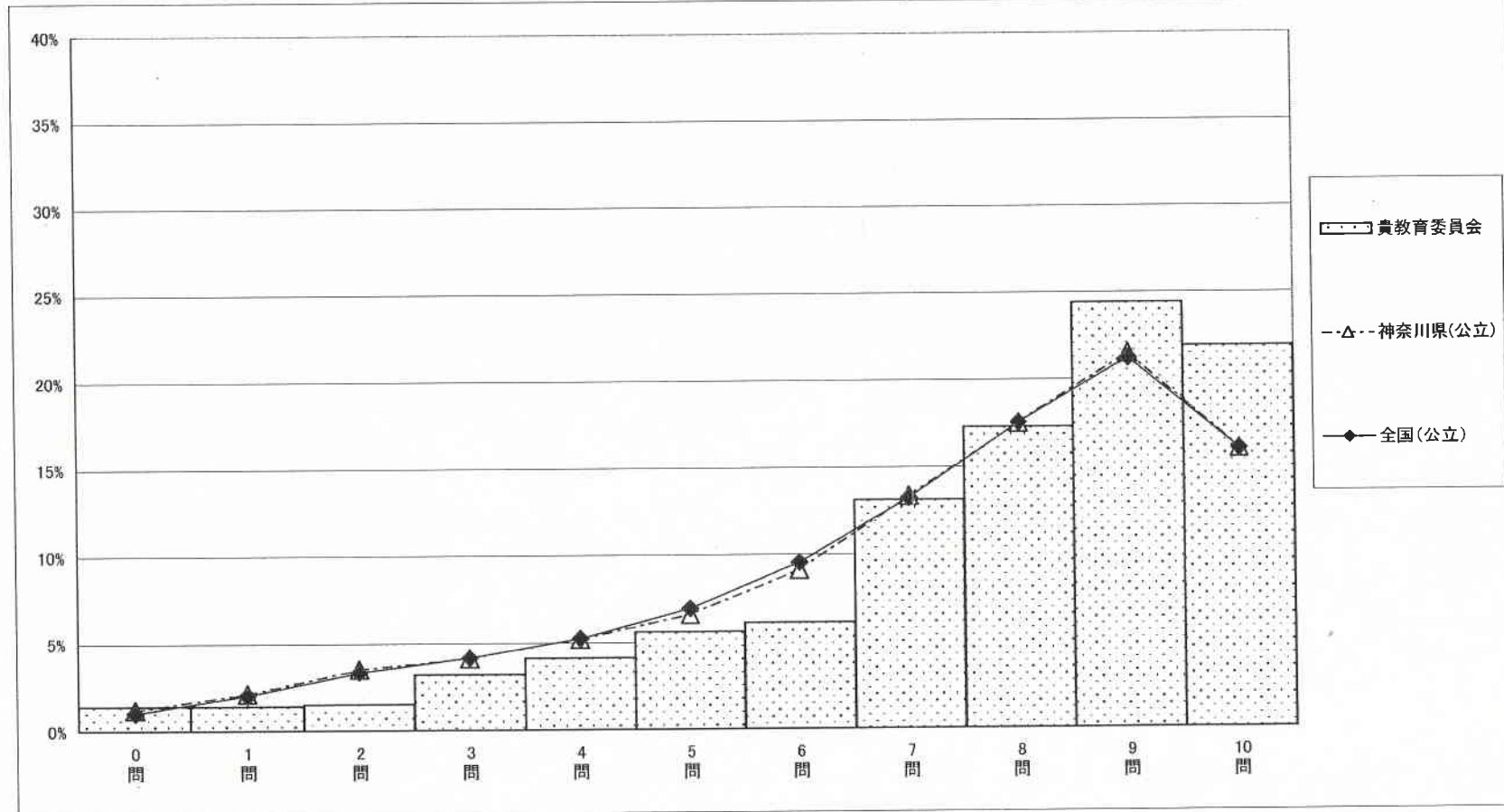


以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	850	7.6 / 10	76.0	8.0	2.3
神奈川県(公立)	60,110	7.2 / 10	72.0	8.0	2.5
全国(公立)	1,023,009	7.2 / 10	72.0	8.0	2.4

正答数集計値 (生徒数)	
0問	12
1問	12
2問	13
3問	27
4問	35
5問	48
6問	52
7問	111
8問	147
9問	207
10問	186

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

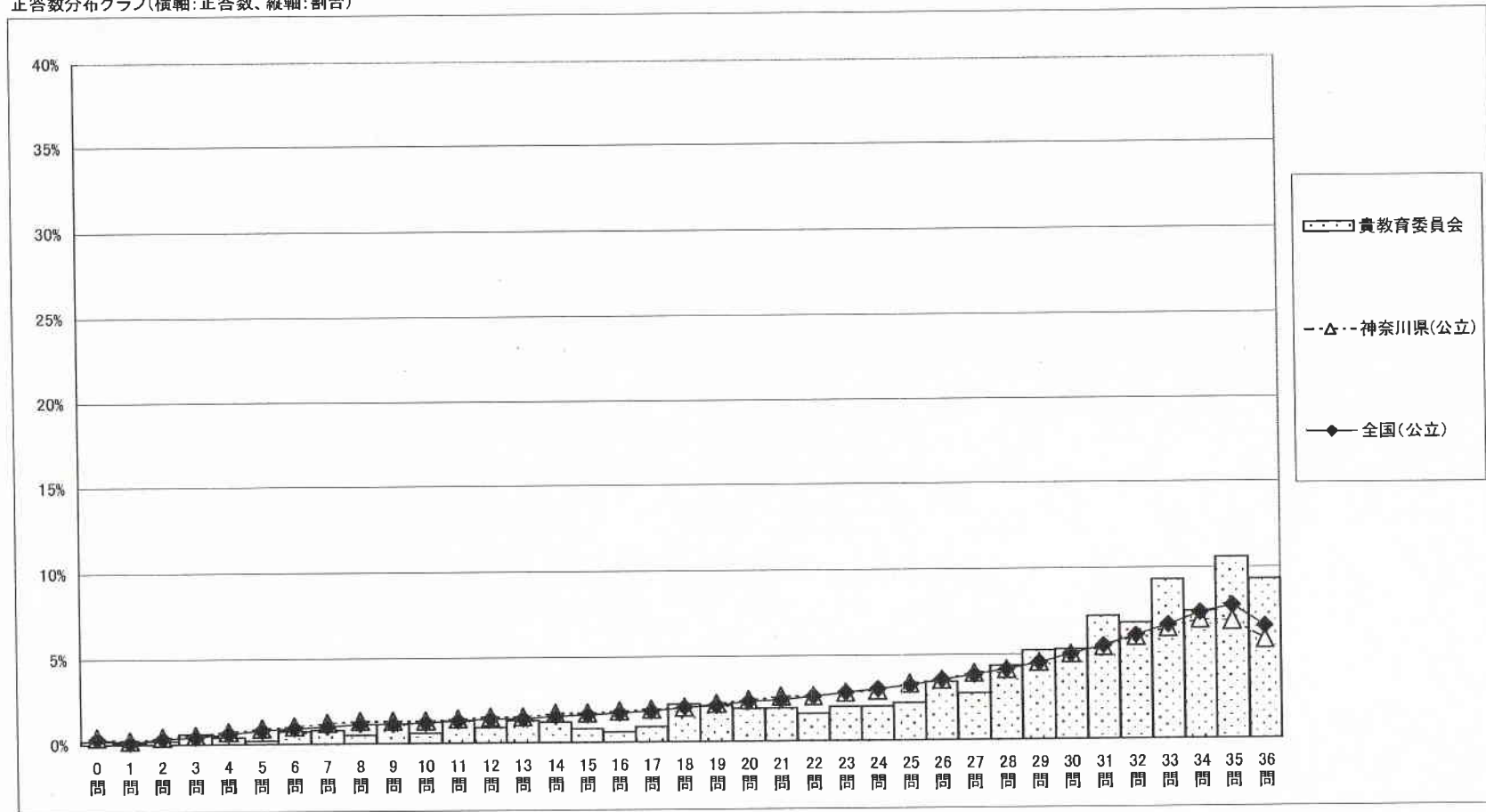


・以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	851	27.7 / 36	76.9	31.0	8.1
神奈川県(公立)	60,109	25.3 / 36	70.3	28.0	8.9
全国(公立)	1,023,316	25.9 / 36	71.9	29.0	8.7

正答数集計値 (生徒数)	
0問	2
1問	1
2問	2
3問	5
4問	3
5問	2
6問	6
7問	7
8問	4
9問	9
10問	5
11問	11
12問	8
13問	11
14問	10
15問	7
16問	5
17問	8
18問	19
19問	18
20問	16
21問	16
22問	14
23問	17
24問	17
25問	19
26問	29
27問	23
28問	37
29問	44
30問	45
31問	61
32問	58
33問	79
34問	64
35問	90
36問	79

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)



以下の集計値／グラフは、4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	850	11.5 / 17	67.6	12.0	4.2
神奈川県(公立)	60,110	10.3 / 17	60.6	11.0	4.4
全国(公立)	1,023,516	10.3 / 17	60.6	11.0	4.3

正答数集計値 (生徒数)	
0問	11
1問	4
2問	17
3問	18
4問	17
5問	27
6問	33
7問	30
8問	45
9問	41
10問	43
11問	63
12問	86
13問	80
14問	84
15問	104
16問	103
17問	44

正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

